

発達障害を抱えた子へのキャリア発達支援（楽集クラブ3・9・1）

事業責任者： 廣澤 愛子（教育人文社会系部門・准教授）

代表学生： 宮本 愛（特別支援教育サブコース・4年）

概 要	<p>発達障害児へのキャリア発達支援について</p> <p>楽集クラブ3・9・1は発達障害を抱えた子どもへのキャリア発達支援を行う活動であり、福井大学教育実践総合センター教育臨床部門が主催している。今年度はコロナウイルスの影響により、オンラインを活用した支援も実施し、①発達障害のある子どもが、自己理解を深めると共に、社会性(主体性・他者理解・協働性)を身につけること、②コロナ禍において引きこもりになることを防ぎ、メンタルヘルスの維持・向上に努めること、③特別支援教育や生徒指導・教育相談に携わることを目指す学生が、教師になった後も活用できる、発達の・心理的課題を抱えた子どもへの専門的支援の在り方を身につけること、の3点を目的とした。その結果、コロナウイルスの蔓延という未知の災害的状況の中でも、オンラインを活用したり、創意工夫を凝らした支援を実施したりすることによって、効果的な支援が提供することが可能であることが明らかとなった。また、そのような支援を行うための具体的な方法を学生が身につけることもできた。本活動は今年度で丸10年を迎えるが、このような体験は初めてであり、未知の災害的状況においては平常時以上に、教員・学生・保護者が協働して子どもの育ちを支えることが肝要であることが実感された。</p>
関連キーワード	<p>発達障害児へのキャリア発達支援、災害状況におけるオンラインを活用した支援、教職志望学生の支援力育成</p>

事業の背景および目的

楽集クラブ3・9・1は、2011年4月に始まった事業であり、今年で丸10年となる。発達の弱さを抱えて社会適応に困難が生じている子どもに居場所を提供し、SST（ソーシャルスキルトレーニング）をはじめとした様々な活動を通して、“キャリア発達支援”を行い、同時に、この活動に係わる学生が特別支援教育の専門性を身につけて教職に携わることができるよう、後方から支援することを目的とした療育活動である。今年度は特に、災害状況における発達障害児や不登校児への支援の在り方を明確化し、さらに、その支援方法・支援内容を教職志望学生が習得することを目的とした。

事業の内容および成果

【対象者及び対象地域】

福井市近郊に住む、発達障害のある子どもとその保護者

【活動内容】

活動内容は、以下の4点に集約される。1) 一人一人の子どもの学習進度に応じた、個別学習活動(→基礎学力を培う)、2) コロナ禍において引きこもりを防ぐために、オンラインを活用した学習支援や遊びを実施、3) 保護者への面談・アドバイス、医療機関や教育機関との連携を綿密に行い、児童生徒の個性に合った進路選択をサポート、4) 事前ミーティングと事後ミーティングを通して、特別支援教育志望学生が専門性に裏打ちされた支援を習得。

【活動日程】

2020年6月～2021年2月。基本的に、第1週目を除く金曜日(16時30分～18時30分)に実施。

【成果】

成果は以下の3点に集約される。1) 子どものキャリア発達の促進に繋がる基礎学力・自己理解及び他者理解・他者との協働性の育成、2) コロナ禍という災害状況における支援方法・支援内容の明確化、3) コロナ禍という災害状況における支援方法・支援内容の基礎を教職志望学生が習得、の3点である。今後は、災害状況における支援の効果検証を研究として位置づけ、実施する予定である。

参考文献・添付資料および特記事項等

特になし。

事業名称:発達障害を抱えた子へのキャリア発達支援 (楽集クラブ3・9・1)

事業責任者: 廣澤 愛子 (教育・人文社会系部門・准教授) 代表学生: 宮本 愛 (特別支援教育サブコース・4年)

キーワード: 発達障害児へのキャリア発達支援, 特別支援教育志望学生の支援力育成、オンライン支援

活動の目的

小集団療育活動を通して、発達的な弱さを抱えた学齢期児童の社会性(自己理解・他者理解・協働性)を育成する

学生が実践を通して、特別支援教育や心理臨床の専門性に触れ、専門性の基礎を身につける

コロナ禍において、ZOOMを活用したオンライン支援を実施

活動の内容

1回2時間の小集団療育活動を月3回、以下の内容で実施

- 1) 各子どもの進度に応じた、個別学習活動
- 2) コロナ禍において、引きこもりを防ぐために、ZOOMを活用した遊びや学習を提供。
- 3) 保護者への面談・アドバイス, 医療機関や教育現場との連携を綿密に行い、児童生徒の個性に合った進路選択をサポート。
- 4) 支援活動及び事前・事後会議を通して、学生の専門性習得を後方から支援

事業の成果と課題

以下の2点が成果、1点が課題として、確認された

成果1)

子どものキャリア発達の促進に繋がる, 基礎学力・自己理解・他者理解・協働性の育成

成果2)

オンライン支援を実施し、コロナ禍において引きこもりを防ぎ、メンタルヘルスの維持・向上に寄与

課題

学生の学びについて、客観的なエビデンスが得られておらず、今後研究として取り組むことが必要